

進路指導室から 第344号

はじめに

久々の「進路指導室から」です。前号を発行して以降慌ただしい日が続き、344号の発行が遅れました。申し訳ありません。

さて、温暖化の影響でしょうか、この時期になっても日中はさほど寒く感じることはありません。子どもの頃と比べると随分と暖かくなったような気がします。私自身が季節の移り変わりを感じるのは、スーパーの果物・野菜コーナーに並べられている品ぞろえからです。この時期は、柿、みかん、リンゴ、野菜は、大根、かぶ、れんこんなどが並んでいます。これから本格的に寒くなると思われますが、美味しそうな果物や野菜を前にして生産者のご苦勞を考えたりします。

「3年生のこれからの取組」について

11月26日（金）段階で、大学入学共通テストまで、あと50日になります。受験対策の進捗状況や模擬試験等の結果から、現在、不安を抱えて生徒も多いかと思えます。ただし、現役生はこれから勝負です。取組次第ではこの段階から100点以上の積み上げは可能です。基町高校の生徒を長年見てきて、大きく伸ばした生徒は以下のような特徴があります。

■ 学校での取組を大切にす

受験勉強は当たり前の高校生活の上に成り立つものだと考えています。「毎朝、遅れないように登校する」、「1時間1時間の授業を大切にす」、「周囲の頑張っている生徒たちの姿に刺激を受ける」、「不安があれば友人や先生たちにその思いを聞いてもらう」、決して特別なことではありません。そうした当たり前の高校生活を生徒、保護者、そして先生方が大切にしてきたことが今日の基町高校の実績に結びついていると自負しています。

■ 計画を立てて学習に取り組む

あと50日と聞けば、残された時間が少ないと思ってしまうがちです。焦りから思いつきで取り組む生徒がいますが、大切なことは計画を立てて、取り組むことです。具体的には、1週間のうち6日間の取組内容を計画し、残りの1日は6日間で出来なかったことを補っていく。なかなか一人でスケジュール管理をすることが難しいならば、先生方に確認してもらいながら進めていくのもいいかもしれません。

■ 模擬試験の復習を大事にする

これまで多くの模擬試験を受験してきましたが、計画的な見直しが非常に大事です。一般に、模擬試験の見直しは最低3回行う必要があると言われていています。1回目は模擬試験の受験した当日、2回目は1週間後、3回目は1か月後です。そろそろ総仕上げに向かっていく時期にかかりますが、改めて再度見直すことにより自らの弱点や理解度を再確認する必要があります。

■ 学習は教科書中心に

大学入学共通テストは、学習指導要領に準拠して出題されます。一見、参考書や問題集の方が見栄えもいいのですが、教科書の方が一つひとつの言葉が慎重に吟味されています。私は公民科を担当していますが、教科書をしっかりと読み込み、大学入試センターや大学入学共通テストの過去問や問題集で重要箇所を確認すれば8割は得点できるのではないかと思っています。あくまで、基礎・基本を中心とする。教科書に記述されていない内容が出題されても条件はみんな同じです。出来なければならぬ問題に対して確実に得点することが求められます。

参考までに卒業生たちが残してくれた「合格者体験記」に、この時期の過ごし方について、以下のようなアドバイスを残してくれています。参考にしてください。

- | |
|---|
| <p>□ センター演習が授業が中心となってくるので、家で勉強→授業で演習のスタイルに切り替えました。冬休みも夏休み同様、1日のノルマを決めて勉強しましたが、理科・地公の割合を少し多めにしました。 (平成27年3月卒) 《早稲田大学 文化構想学部 文化構想学科》</p> <p>□ 授業は問題演習が中心となるので、丁寧な復習が力をつけることにつながると思います。また、記述問題を解</p> |
|---|

く機会も自分で取ることが良いと思います。ここでつけた力はマーク問題にも役に立つと思います。

(平成29年3月卒)《東京大学 文科二類》

- 冬休みは寒くてなかなか起きることができず、自分に甘かったなと思います。今思えば、冬休みに朝早くから来て勉強していた人ほど合格しているので、冬休みにどれだけ自分に厳しくできるかが大切だと思います。
(平成30年3月卒)《九州大学 共創学部 共創学科》
- センター試験の対策と平行して、二次試験のための記述の練習を行いました。二次試験の配点が大きいため、12月までは記述中心、12月と冬休みはセンター試験中心の学習に切り替えました。学習を計画通りに進めるには、体調管理が重要だと思います。
(平成30年3月卒)《名古屋大学 農学部 応用生命科学科》
- 後期もほぼ毎日、学校に残って放課後勉強しました。そのようなクラスメイトも多く、一緒に勉強していたため、途中で投げ出すことなくやり通すことができました。冬休みも夏休みと同様、補習に参加し、補習がない日も、学校へ行って勉強しました。仲間がいると心強いです。
(平成31年3月卒)《大阪大学 基礎工学部 システム科学科》
- 模試の復習には時間をかけました。自己採点をしたその日に復習して、1か月後の自分にもわかるように赤ペンを入れるようにしていました。難しい問題は5分以上悩まず、先生や友人に相談していました。教科書を10回読み返せば暗記以上の理解度を得られ、基本的な見落としが減ります。
(令和2年3月卒)《広島大学 教育学部 第四類(造形芸術系コース)》
- センター試験や志望大学の過去問などのような演習問題をとにかくやっていました。特に、冬休み前頃になると、新しい事には基本的には手を出さず、過去問演習や、今までにやった参考書の復習をやっていました。二次試験の過去問は12月頃からはあまりやらず、センター試験後に一気にやりました。
(令和2年3月卒)《九州大学 工学部 機械航空学科》
- 土日は家にいると集中出来なかったもので、どれだけ面倒な日でも学校へ足を運んでいました。この時期は受験が近くなってきて、焦りや緊張がありました。そんな時こそ1日でやると決めた事を確実にこなす事を意識していました。
(令和2年3月卒)《神戸大学 文学部 人文学科》
- 二次試験の配点が高かったのも、授業がセンター試験対策になっても放課後や土日には二次試験対策をするようにしていました。一方で、センター試験の問題も、たとえ正解していたとしても復習をしなければやった意味がない、と思っていたので、二次試験対策が出来ない日もしばしばありました…。勉強法を毎日のように見直していました。
(令和2年3月卒)《大阪大学 工学部 応用理工学科》
- 冬休みは、得意教科以外はすべて共通テストに向けて勉強しました。どの教科も触れない日がないように万遍なく取り組み、時間を意識するように心がけました。
(令和3年3月卒)《大阪大学 外国語学部 外国語学科(スペイン語専攻)》
- 教科による勉強量の偏りができてしまいました。物理に比べて化学の量が少なかったし、英語も、もっとたくさんやるべきでした。この時期に大切なのは、毎日少しでもその教科に触れることです。冬休みの少し前から共通テスト対策を始めました。自分は記述よりもマークがすごく苦手だったので、少し多めに時間を取りましたが、自分の得意・不得意、大学の配点等をしっかり考えてマークの対策に臨んでください。
(令和3年3月卒)《京都大学 薬学部》
- 後期は実戦演習と言いますが、共通テスト演習なら8割・9割を超えるまでは、適切な参考書などに取り組む方が伸びると思います。苦手だという自覚がある分野は、この時期でも勇気をもって1から復習した方が早いです。二次対策は、過去問をやりすぎると本番で傾向が変わった時焦ると思うので、難易度の確認ぐらいが良いと思います。
(令和3年3月卒)《京都大学 経済学部》

「第5回保護者対象進路研修会」について

以下にて、「第5回保護者対象進路研修会」を行います。

| | |
|-----|----------------------------|
| 日 時 | : 令和3年12月4日(土) 14:00~15:30 |
| 場 所 | : 本校視聴覚教室 |
| 内 容 | : 「2022年度入試について」 |
| 講 師 | : 駿台予備学校 広島校 講師(予定) |

進路指導室前に申込用紙を用意していますので、必要事項をご記入の上、お子様を通じて進路指導室部にご提出してください。(申込手続きなしのご参加はご遠慮ください)

終わりに

新型コロナウイルスの感染者が減少し、経済の活性化に向けて舵が切れようとしています。ただ、今後懸念される第六波への対応もしっかりと準備しておく必要があります。

(文責: 進路指導部 池本 邦彦)